

市立中学生海外派遣研修報告

市では、国際化に対応する施策の一環として、例年外国の文化、歴史、習慣などを体験し、国際的視野と見識を深める目的で中学生をオーストラリアに派遣しています。

今年度も、中学生24名が8月1日から8日まで研修に参加しました。

「国際交流を体験しよう」

西枇杷島中学校 箕浦 あずさ

日本に比べると、相手と自分が同じ言葉を使って話すため、「こういうことが話したい」と思ったら、次々と言葉が出てきて簡単に「コミュニケーションをとることが出来ます。しかし、海外へ行くと、相手と自分が異なった言葉を使って話すため、「こういうことが話したい」と思っても、言葉が出てこなくて「コミュニケーションをとるのが難しいのです。しかし、私は、その不便さを感じつつも楽しさを感じていました。」

今回の海外派遣で、多くの外国人と関わってきました。ホストファミリーやキャンピングアテンド、現地の学校の生徒……。彼らと話していると、どう話していいのかわからないことがたくさんありました。しかし、その中でも、自分の話した英

語が相手に伝わるとうれしかったです。それが「伝わらない不便の中の楽しさ」でした。日本にいて、日本人と話しているときには決して味わうことのできない感覚。もしも、世界中のすべての国で同じ言葉を話していたらこんな素晴らしい経験はできなかつただろうと思います。

オーストラリアの人々と関わるるとき、彼らはとてもフレンドリーなことに気がつきました。振り返れば、自分から話しかけることは少なかつたと思います。もっと自分から話しかけることで、国際交流はもっともっと楽しいものになるのではないかと思います。私も、彼らを見習って自分から声を掛けられるようにしたいです。

「オーストラリアの自然を見て」

清洲中学校 小林 純也

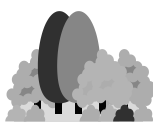


本当に美しくった世界遺産ブルーマウンテンズを目の前にしたとき、思わず「すっごい」と声を出してしまいました。遠くに見える山々はその名の通り青く輝き、ふもとは広大な緑の森が広がっていました。「なぜオーストラリアの自然は「うもきれいなのか？日本との違いは何なのか？」と思わず疑問が浮かびました

が、答えはその場では分かりませんでした。

時間はあっという間に過ぎ、帰路の途中でバスの中からシドニーの建物眺めしていると、日本とある違いに気がきました。シドニーは都市にもかかわらず、その中に多くの木々がありました。思い出せばホームステイ先の家の周りも木々で囲まれていました。きつとオーストラリア人は昔から自然を大切に、それを残そうとしてきたのです。日本人は勤勉で、科学技術の進歩と共に生活は豊かになりましたが、自然を意識していたとは言い難いかも知れません。

自然とは、本来人の一番身近にあり、だからこそ落ち着くことができるところです。僕はそんな自然の美を大切にしながら生活していきたいです。この感動を伝え、日本をより美しい国にしていける仲間を増やそうと思いました。



「本場の英語を用いた英会話に挑戦」

新川中学校 増田 直人

僕はコミュニケーションがあまり得意ではありません。だから、ホストファミリーと積極的に話せるかどうかとても不安でした。しかし、

自分の英語力を上達させるには、自分から話す必要があります。まずは、めちやくちゃんな文でもいいからとにかく話すことが大切と考えました。

最初は、相手が何を言っているか全然分からなくても大変でした。ホストファミリーに質問されても訳が分からなくて混乱し、その後どうしていいか分からなくなったこともありました。でも思い切って「I can't understand」と伝えるとホストファミリーが分かりやすく言い換えてくれ、少し分かるようになりました。何事もやってみないと進歩しないということを実感しました。英語だけの生活に慣れたところ、テーマの「本場の英語を使う」ということに挑戦してみたくまりました。すぐにできることではないので、まずはあいさつから形だけトライしてみました。地元の方は、バスに乗るとき「Hello」、降りるときは「Thank you」とドライバーに声をかけていました。僕も同じように声をかけてみて、笑顔で返してくれたときはとてもうれしい気持ちになりました。

今回の研修で挑戦することの大切さを学びました。やってみなければ前に進めないということも分かりました。この体験を今後に生かしていきたいと思えます。

「未来に向かって」

春日中学校 石黒 美羽

私は、海外派遣で2つのことを学びました。

一つは、「誰にでも優しく」ということです。私達は学校から帰るとき、不安で地図を見ながら歩いていると、後ろから来たおばあさんが私たちに「道に迷ったの？」と英語で聞いてくれました。私はその時迷子ではありませんでした。私もその時迷子ではありませんでした。他にも駅の中や市内など、高齢者や子どもだけでなく異なる国の人も互いに助け合っていました。

もう一つは、「コミュニケーションは積極的に」ということです。「コミュニケーション」は話すということだけではなくありません。ジェスチャーや顔の表情などでも分かります。何かしなれば、何も伝わりません。とにかく伝えたいことを言葉や手・顔など体全体で伝えることが大切なことだと思いました。

今回の経験でお互いの国の良い所や特徴を見つけることができたと思います。日本の良い所は個性として受け取って、外国の良い所や尊敬できる所をこれからの生活に取り入れていきたいです。また、この研修で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。



8月1日結団式 市役所本庁舎大会議室にて

◆派遣生徒

【西枇杷島中学校】

橋本和真・日浦健吾・水野華暢・今井杏奈・鈴木萌花・箕浦あずさ

【清洲中学校】

小林純也・中野恭輔・本田涼太・池田千紗・岡村春佳・藤田真生

【新川中学校】

池村爽・大橋一毅・増田直人・小川謡・藤田有美・村上華音

【春日中学校】

小崎悠悟・後藤健友・丹羽祥太・石黒美羽・後藤佳歩・杉山緋花留

◆引率教諭

【新川中学校】 団長 堀崎智恵

【西枇杷島中学校】 宿波祐美

【清洲中学校】 野村洋平

【春日中学校】 西裕允

平成26年度清須市男女共同参画講演会

「宇宙主夫～妻と娘と夢をおいかけて～」



山崎 大地 氏

「家族で叶えた宇宙への夢」山崎直子宇宙飛行士が宇宙へ行くまでの裏話とともに、日本で女性宇宙飛行士が宇宙へ行くということはどういうことなのか。日本の男女共同参画の本来のあり方はこれでいいのか。今の日本には個人、企業、行政、法律や制度から設備に至るまで、改善しなければならないところは沢山あります。宇宙的な視点から日本の社会問題を考えるきっかけになればと思います。

皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください。

- と き 10月25日(土)
午後1時30分～3時(開場は午後1時から)
- と ころ 清洲市民センター ホール
- 講 師 山崎 大地 氏(山崎宇宙飛行士の夫)
- 定 員 350名(定員になり次第締切)
- 入 場 料 無料(ただし、入場整理券が必要です。)
- 配布場所 清洲市民センター・新川ふれあい防災センター・にしびさわやかプラザ・春日公民館

■問合せ 生涯学習課(清洲市民センター) ☎052-409-6471